

## 聖書の集い（第7回）

2014年12月3日

古本 靖久

1、聖歌 69番 「もろびとこぞりて」

2、お祈り

3、聖書 「マタイによる福音書 2章1節～12節」

（新約聖書2ページ）

4、今日の内容

### 「クリスマスってどんな日？」

今回はいつものテキストから離れて、クリスマスについてお話をしたいと思います。みなさんにとって、クリスマスってどんな日でしょうか。お連れ合いさんとの思い出の日だという人もいるかもしれません。また、ケーキやご馳走を食べる日、プレゼントの出費がかさむ季節、いろいろあるでしょう。でも一体、クリスマスって何なのでしょう。少し考えてみたいと思います。

#### ① クリスマスってそもそも何の日？

クリスマスとはもともと、「クライスト ミサ」が一つになって出来た言葉です。クライストとはイエス・キリストの英語読み、ジーザス・クライストのクライストの部分です。またミサはわたしの妻の名前でもあります。キリスト教の中の大きな礼拝、「お祭り」をイメージしてもらったらわかりやすいかもしれません。ですので、クリスマスとは「キリストの礼拝」という意味なのです。

幼稚園ではクリスマスにペーजेントをおこないますが、この時に演じるのがイエス様の誕生物語です。また教会でも、キャロルを歌ったり、聖書を読んだりしますが、その内容は「イエス様がお生まれになった」ということへの感謝です。

礼拝堂や玄関にはリースをつけ、家の中にはツリーを飾り、イエス様をお迎えする準備をします。なお、日本では25日が終わったらクリスマスの飾りつけは片づけるところが多いですが、本来は1月6日までクリスマスの期間は続きます。ですので、教会の前を通った時、飾りがそのままになっていたとしても、片づけをサボっているわけではありません。

## ② わたしたちにとって、どんな意味があるの？

では、クリスマスはわたしたちにどのようなメッセージを与えてくれるのでしょうか。子どもたちのページメントを見ていくと、多くのことに気付かされます。

イエス様はどこでお生まれになったのでしょうか。たとえばこの世を救ってくれるスーパーヒーローが今、生まれるとしたらどうでしょう。ある程度立派な家、よい家柄、ふかふかのベッド、そういったところで生まれるのではないのでしょうか。ボロボロの家で生まれたヒーローなんて、そんなにありがたくないのです。

しかし、イエス様は違いました。王宮や宮殿ではなく、家畜小屋で生まれました。ベツレヘムというちっぽけな町で、宿屋にも泊めてもらえずに、馬たちの見守る中で生まれたのです。またイエス様が生まれたことを、天使は羊飼いたちに知らせました。羊飼いは当時、とても貧しく、人々から相手にされない存在でした。その彼らに、救い主の誕生は真っ先に知らされました。

イエス様が家畜小屋で生まれたこと、それはわたしたちと同じところまで降り、わたしたちと共に歩いて行くためです。また、羊飼いに天使が最初に知らせたこと、それは当時、最も弱くされていた人にこそ、良い知らせを届けるということ、わたしたちが自分の力で歩いて行けないと思うとき、イエス様はそこにお生まれになるのです。

## ③ サンタクロースってなに？

最後に、子どもたちが大好きな「サンタさん」です。聖書の中にはサンタクロースは出てきませんが、クリスマスになると必ず登場します。最近はピザなどの出前もしているようです。

このサンタクロースですが、4世紀ごろの人物「聖ニコラウス」がモデルになったといわれています。「セイント ニコラウス」を何度も早口で言うと、サンタクロースとなります。彼には様々な伝説がありますが、有名なのは、お金がないために身売りをすることになった三人の少女の靴下に、金貨の袋を入れて救ったというものです。その伝説から、靴下をぶら下げておくとプレゼントをもらえるという習慣が生まれたそうです。

ただし、悪いことをしている子どもには、石や炭が入れられるそうで、もっとひどいとサンタのお供をしている悪魔や冬の精霊がムチで打つこともあるようです。

今日のお話はここまでですが、一つの詩をクリスマスプレゼントとして贈りたいと思います。(『今日』伊藤比呂美訳 の朗読)